



## 成長が早い竹を使う

### 心あったかニュース

全国有数の竹林面積を誇る九州・山口で、竹を加工して製品開発に生かす動きが広がっている。というニュースをご紹介します。読売新聞オンラインより)宮崎県都城市で家畜用飼料や肥料を製造する大和フロンティアの、製品の原料となっているのが、宮崎、鹿児島県内で伐採された竹だ。粉碎機で粉々にし、糖蜜を混ぜるなどの工程を経れば完成する。宮崎県畜産試験場の技術を実用化し、「笹ささ サイレージ」と名付けた。一般的な飼料に比べ、乳酸菌などが豊富だそう。竹の受け入れ量は同社全体で月700トンに上る見通しで、今後は竹の調達エリアや販路の拡大を一段と進めたい考えだ。田中浩一郎社長は高品質の飼料、肥料を生産でき、放置竹林対策にもなる。「一石二鳥だ」と。製紙大手の中越パルプ工業(東京)は、鹿児島県薩摩川内市の工場で国産の竹を使った紙を生産する。ノートや名刺などに利用され、使う竹は年約1万トンに上る。エシカルブランド(山口県防府市)は、

竹炭の洗剤や、竹の繊維を活用したタオルを製造して国内外で販売する。竹は温暖な気候で育つため、九州・山口に多い。林野庁によると、国内の竹林面積は16・7万ヘクタールで、都道府県別では鹿児島が1・8万ヘクタールで最も大きく、大分、福岡、山口と続く。しかし、面積は増加傾向の一方、家具や割り箸などに加工されてきた竹の消費量は、プラスチック製品の普及などに伴って減少している。竹は1日で1メートル以上成長することもあり、伐採されずに放置されることで起きるのが、「竹害」と呼ばれる問題だ。地中の養分を奪い、日光を遮ることので周囲の植物の成長を妨げる。根が浅いため、斜面地の竹林の場合は、長雨が連続くと土砂崩れなどにつながる危険性もあるそう。竹害の解決が求められる中、竹を巡るビジネスに追い風も吹き始めている。世界的に脱プラスチックの流れが加速しているため、大学と連携して新たな製品の実用化や需要の取り込みを目指す企業も出ている。大分大発の新興企業「おおいた CELEENA セレーナ」(天分市)が挑むのは、独自技術で開発した素材「竹セロロースナノファイバー」の活用だ。幅広い用途に使えらるとみており、水中で粘る特性を生かして今秋にも化粧品の製造する。将来的には

バイオ燃料などへの応用も視野に入れていえる。化粧品事業を手がける三省製薬(福岡県大野城市)も、福岡県八女市産の竹から美容成分を取り出す研究を九州工業大(北九州市)と共同で進め、効果が確認された成分を今年3月から独自ブランドの化粧品に使用している。同大はさらに、成分を抽出した後の竹を蓄電池の電極として再利用する研究も進める。竹の活用を巡っては、タケノコからメンマを生産し、地域の特産品としてPRする動きも出ている。昨年には全日本空輸(ANA)が機内食の「香の物」として採用し、今年も8月に向け、日本を出発する国際線ファーストクラスで提供される。

#### 編集後記

竹の活用がどんどん増えていて、すごいとおもいました。日本で育った竹をどんどん活用したいとおもいました。